

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

一口メモ

▼超軟水

三段峡入口の湧き水は硬度九の超軟水。日本の水道水は、平均五〇〜六〇だ

から際立っている。一桁台は珍しい。一般に軟水はコーヒートと食に合っている。浅煎りのアメリカ

カンは豆本来のよい香りと味が楽しめる。出汁の旨味を最大限引き出してくれる。

民放2局 三段峡企画相次ぐ

NPOメンバーが魅力発信

開峡百周年を迎え、民放二社が三段峡を情報番組で取り上げた。地元局の番組ではNPO法人代表の本宮炎さんから「さんけん」のメンバーが、峡谷の景観や豊かな生態系、熊南峰の思想、三段峡憲章の意義などを説明した。キー局の全国放送番組では、タレントの福くんが雨の中を黒淵まで歩き、秘境感を伝えた。

来た人が、同じようには感じないのが素晴らしい。憲章があらわした有意義な点だと評価した。

六月十二日夕方に放送された広島ホームテレビの情報番組「Jステーション」では、南峰が最初に出会った滝の口の川辺へ下りて、本宮さんが見る方向によつ

て変化する表情を紹介して番組がスタート。赤滝で取材スタッフが硬度一四の水を飲み、瀬戸内海へ流れる自然の恵みを印象付けた。上野宣浩さんは三段峡に

めくくり、アナウンサーは

「三段峡は水墨画の美術館であり、生態系の博物館です」と、憲章精神を的確にコメントした。

福くんがエール

五月三日、日本テレビの昼の情報番組「ヒルナンデス」で、エールを送った。



三段峡 100 周年を特集したホームテレビと取材に応じる本宮さん(下)

難所の連続 二谷を探索

高下さん熱意の案内 7人がアタック

三段峡の探勝路の対岸にあり、一般には知られていない二谷へ6月14日、体調に不安を残す高下務さんの熱意の案内で、NPOメンバーら7人が、蓬萊岩付近の柴木川を渡り踏み込んだ。岡尚三さんと松尾俊孝さんの寄稿を紹介する。



沢を渡る「二谷探索隊」

滝群や椽の森 価値を再認識 岡さん

三段峡には、未開の地・二谷がある。難所の連続で熊南峰が入峡した当時の景観を残している。沢登りの名

所としても有名だ。道がない二谷は、高下さんの案内なくしては入れない。岩をう回したり、急斜面を上ったりする。一、三の小

目的地のメインは百本椽の森と黒滝。椽の森では昔、柴木集落の人が実を採り尽くせなかったと言う。大木が青葉を茂らせ、夏の陽に映える様子は、妖精か仙人の棲み処と思わせるように感じだ。

本宮夫妻によるお茶会となった。椽の林でたてたお抹茶は味も気分も最高。屏風のような滝群、椽の森。二谷は三段峡の価値を再認識させた。高下さんに感謝の一日になった。

景勝地復活もNPOの役割 松尾さん

「黒滝まではもうすぐ。皆で行ってきんさい」と高下さん。七人は岩を登り、沢を渡り、スリルを楽しみながらアタックした。滝は右に

二谷は内黒山を源流とし、三段峡の景勝・塔岩の裏を廻り、ぐるの瀬辺りに注ぐ柴木川の支流である。合流点では積み重なった石の間から、所々で清流が噴き出している。水面はほとんど石に隠れ、すぐ上は深

い緑に覆われていて、探勝路からは注意しなければ分からない。熊南峰は二谷沿いの景勝として、ぐる滝、二谷の椽林、黒滝の名称を案内図や解説文に残している。探勝路以外で、今ではほとん

ど人が訪れなくなった景勝地を、安全に探索できるNPOの役割だろう。かつて柴木から右岸の山道が生活道として使われ、容易に二谷へ入れた。椽林で椽が原への山越えと黒淵への道が分かれていた。今は消えている。

新名所づくりに夢

岡尚三さん



「夫婦淵の秘密を教えてください。岡さんと一緒に歩くのは楽しい。山歩きの豊富な経験と軽妙な語り口で、知らなかった魅力を教えてくれる、町のガイドリーダーだ。トレッキングマップを制作し、三段峡内には命名した場所もある。ここに石を投げると縁結びになる、というのは流行らないかな」と、名所づくりのアイデアを秘める。三段峡でどこからともなく姿を現す。見かけたら、夫婦淵の秘密を聞いてほしい。(炎)

この人

三段峡ホテルWeek 開催

7月3日(月)~9日(日)

有料でホテル観察会

昨年は予想以上の来場があり、店での対応が出来なかったり、ホテルが見られなかったりした反省から、昨年まで一晩だった「三段峡ホテルまつり」を「Week」に衣替えした。ステージイベントを止め、自然環境やホテルの生育を学ぶ観察会などを実施する。

- 観察会 3日~7日、19:30~21:00 1日20人、1,000円。ガイド同行
- スタンプラリー 8日、9日。17:00~
- 灯りアート展 3日~9日。交流館裏